

競技上の注意（団体戦）

審判長：山田 健二

<ルールについて>

- 1 現行の日本卓球ルールを適用する。（11点の5ゲームスマッチ）
- 2 タイムアウト制を採用する。ただし、1マッチに1回、1分以内を厳守すること。
- 3 公認のユニフォームを着用し、チームで統一する。また、日本卓球協会ゼッケンを着用すること。ユニフォームが揃っていない場合は、開会式前に必ず審判長へ届け出る。
- 4 競技方法は予選リーグ・決勝トーナメントともに4単1複の3点先取。ダブルスで出場する選手はシングルスにも出場できるが、1・2番同士の組み合わせでダブルスに出場することはできない。
- 5 監督は役職者章を、選手は今年度のゼッケンをつけてベンチに入ってください。
※ ゼッケンが間に合わない場合は特例として昨年度のゼッケンを認めます。
- 6 アドバイスルールの変更について
『競技者は、それによって競技が遅れさえしなければ、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる』（全国高体連特別ルールから引用）

<進行について>

- 1 タイムテーブルをもとに、放送によって試合コートを指定して進行する。
（あくまでも試合予定時刻の目安である。また、当該コートでの実施とは限らないため、放送に注意。）
- 2 オーダー提出は、1日目10：00試合予定の学校は9：15までに、2日目10：00試合予定の学校は9：30までに、第2試合以降は対戦予定校が決定次第、速やかに本部へ提出すること。
オーダー用紙は右側と左側があるのでリーグの上のチームが左側、リーグの下チームが右側を使用する。
- 3 原則、相互審判とする。その他、本部の指示に従うこと。
- 4 初日は男女とも予選リーグの全試合、および男女1位トーナメントのベスト8決定、男女2～3位トーナメントの最後まで実施予定。ただし、男女の2・3位トーナメントは試合数が多いため、3ゲームマッチ（2ゲーム先取）で行います。
2日目は1位トーナメントのベスト8校による順位決定トーナメントを実施する。
- 5 進行の状況によって、展開台数や試合順序を変更して実施することもある。その場合は、別途本部より指示する。
- 6 ベンチの位置は本部に向かって左側がリーグ上のチーム、本部に向かって右側がリーグ下のチームとします。トーナメントにおいても上下のチームで同様とします。

<審判について>

- 1 予選リーグ・トーナメントともに相互審で行います。シングルスは1名、ダブルスは2名で審判をおこなってください。
- 2 2日目の順位決定トーナメントの審判は、同じカテゴリーの別の試合の対戦を審判する。

<予選リーグ・順位決定リーグ（トーナメント）について>

- 1 試合順序は、始めにシングルス2試合、次にダブルス、終わりにシングルス2試合とする。ダブルスと同時に4番シングルスが実施できる場合は2台展開により実施してもよい。
- 2 4台展開の場合、先にダブルスを行い、その後シングルスを行う。
- 3 オーダーの上から順に3点が決まった時点で、残りの試合は終了すること。（4番によって3点が決まった場合でも、1～3番が終了していない場合はその試合が全て終了して試合記録とする）
（4台展開の場合も同様とする）